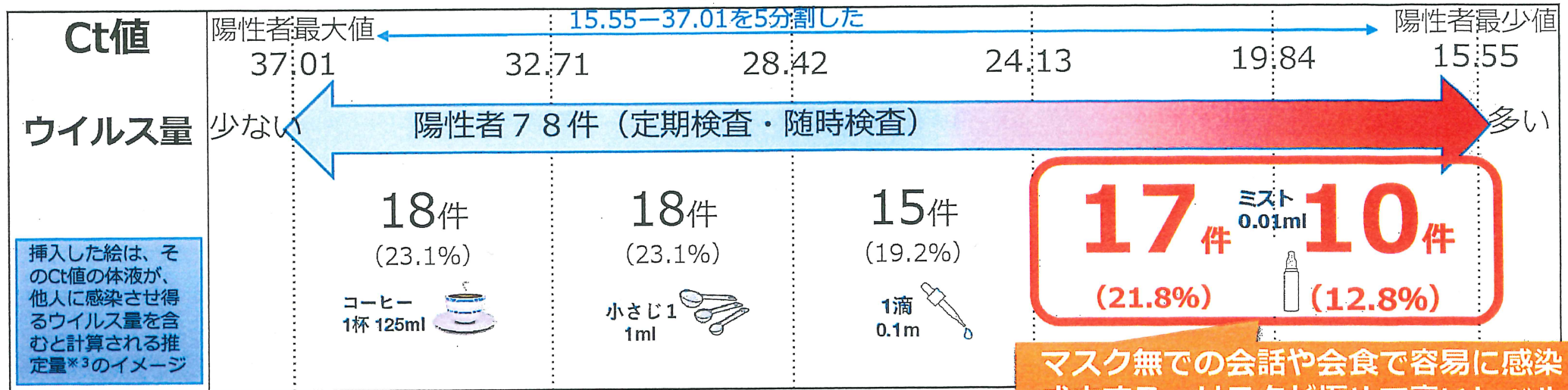


社会的検査での陽性者(78件)のウイルス量の分布

(第2段階以降の委託事業者での検査開始令和2.11.11~令和3.3.4時点)

社会的検査の受託事業者から、陽性となった検査対象者のデータ78件を受領し、世田谷区でその分布を作成した。社会的検査の機器及び試薬等での計測数値(Ct値※1, 2)を陽性者の最大値と最小値の間で分布を表した。

(慶応義塾大学医学部腫瘍センター ゲノム医療ユニット長 医学博士 西原広史教授監修)



- ① 主に無症状者を対象とした社会的検査での陽性78件のうち**27件(34.6%)**が他者に容易に感染させ得るウイルスを保有していた。
- ② ①の27件のうち、**約8割が利用者(高齢者)**であった。
- ③ 陽性者の健康状態や、高濃度ウイルス保有者の施設内クラスター発生に対する影響の有無等については、専門家を交えて調査・分析を行い、その結果を感染予防・クラスター防止に役立てる予定。

※1 Ct値とは、陽性判定時の検査機器における検出対象遺伝子の増幅サイクル数を言い、検体中のウイルス量に反比例し、ウイルス量が多くなるほど小さい数値となる。
 ※2 Ct値は、検査系(機器・試薬等)によって数値が変動するので、数値の一般化が出来ないことにも留意すべきである。(「COVID-19検査法および結果の考え方(2020年10月12日)、日本感染症学会資料より)
 ※3 感染させ得るウイルス量の計算は、西原教授らが発表した論文に基づく推定値(The Keio Journal of Medicine, 2021. <http://dx.doi.org/10.2302/kjm.2021-0003-OA>)